



EAASDCの60周年FRU大会に参加

国際交流委員 平賀 正治

去る9月4～6日、EAASDC(ドイツに拠点を置く欧州SDクラブ協会)の60周年を祝う「秋のラウンドアップ(FRU)」がドイツで開催されました。これにS協沖吉会長が招待されましたが「全日本コンベンションin福岡」と同日開催だったため参加することが出来ませんでした。たまたま2007年5月以来、同組織加盟クラブからの日本クラブ訪問を支援して交流のあった私ども夫婦も招待を受けFRUに参加を決めていたので、60周年セレモニーで沖吉会長の祝辞の代読を仰せつかり参加して参りました。その前後の数日で欧州3か国の5クラブの訪問もして国際交流の一環として、欧州のスクエアダンスを見聞して来ました(クラブ訪問がきっかけで始まったEAASDCとの交流が、今度はそのドイツ人夫妻にFRU参加も含めて案内して頂き、とても楽しい旅になりました)。

欧州との交流は「iPAC」ツアーでダンサー&コーラーレベルですで行われていますが、「欧州SDコンベンション」(欧州各国の回り持ち開催)やEAASDCのイベントへの組織参加の実績はありませんでした。しかし、昨年末「欧州ニューズレター」に沖吉会長のS協現状報告の記事が掲載され、S協のことが英文で欧州にも知られるようになったことは喜ばしいことです。今後の欧州との交流のためこのイベントについて60周年記念を機に知っておこう、との国際交流委員会(中川裕委員長)の意向もあり、組織代表として参加させて頂きました。

ドイツ西部のゲルセンキルヒェン市の地域で開催された「秋のラウンドアップ」ですが、MSからC4まで、また他にラウンドダンス、コントラダンス、クロッキングなど、多くのダンスジャンルを網羅、本部建物にはショップやB導入ダンスもあり、全てのダンスがここから数キロ以内に点在する8つの建物で行われました。本部の隣の建物にMSとA1&A2の会場、更にその奥にP会場があり、参加者の多くはこの中で踊っていました。C1～C4会場は北に、またRD会場とユース会場は東に数キロのところ。シャトルバスが運行されていても会場移動は楽ではなく、多くの参加者と同じく主にMS、P、A1&2会場でダンスを楽しみました。運営法で日本やアメリカと全く違うのは、プログラム進行の仕方。1～3人のコーラーが約75分コールを担当するように書かれていますがMCも時間管理もなく、各会場でダンサーの参加が少な

いときは短く切り上げたり、コーラーも適当に入れ替わっていたりして、ダンサーもそういうものと思っているようでした。Paul Blistow(英国)、Tom Hedberg(スエーデン)、Anne UebelackerとSandie Briant(米加)などがMS～A1&2などで200～500人のダンサーを集めていました。参加は中国、カナダ、USA、日本を含む14か国から、また、参加者数は多くの会場の出入りも含め述べ1,500人位と推定します。

さて60周年記念式典ですが、大会第2日目の18時からPの会場で行われました。S協から事前にGSIのWalt Burr氏に手配を依頼してあった生花がJ.S.D.A.の文字板や国旗と共にステージの真ん中に飾られました。



60周年の祝辞はゲルセンキルヒェン市長、コーラーラブのJon Jones氏に続いて私から、ドイツからのクラブ訪問がきっかけで組織間の情報交換が始まった経緯を述べたうえで沖吉会長のお祝いのメッセージを代読させて頂きました。事前に英語の原稿を渡してありましたが、通訳の女性は私が2～3行ごとに区切って英文の祝辞を読むと、すらすらとドイツ語にしてくれ、聴衆から何度も拍手を頂けたので代読の大役は務まったかと思えます。



「世代を超えたSD」/まず70歳以上の参加者が、続いて16歳以下の参加者がフロアでパートナーとなり、コールに従って踊るうちにいつの間にか参加者全員が加わって踊っていました

今回のEAASDC 60周年記念大会への参加を機会に、今後国際交流が盛んになって、スクエアダンスの輪が広がることを祈念し、大会参加の報告とさせて頂きます。



左よりWalt & Juli Burr, Peter & Beate Flohrchuetz, 平賀圭子&正治

ドイツのSDツアー国内各地で交流

国際交流委員会 中川 裕

ドイツから日本へSDダンサーが、観光をしながらスクエアダンスの例会訪問をするというツアーを組んで来られました。フランス、ニュージーランドのダンサーを含めて総勢33名、MSのみの方、P、A、Cまで踊る方と様々でした。11月4日から13日まで、4か所で7クラブの人たちと交流しました

英語もドイツ語もよく理解できない中でも、例会は日本にいながら、海外へ行った気分。会話が出来なくても、みなさん明るくて、一緒に楽しいひとときを過ごせました。まさしくスクエアダンスを通じた国際交流が出来たという感触でした。

●11月4日(水) 東京

都内観光を終えて千代田SDCに、ドイツからお客様がやってきました。その人数たるや一寸したクラブが一つできそうな33名で千代田SDCと合せたら約200名の交歓パーティーとなりました。さすがに皆さんSDを楽しむのを目的にしている方々らしく、あつという間に溶け込み、お客様の中の2名のコーラーと、キューアにもコール、キューをして頂きました。

プラスチップで、Ping Pong Circulateではわれわれは“ポン”と一回拍手をしますが、ドイツの皆さんは“ポンポン”と二回拍手をするので、会場はいつの間にかドイツ式で楽しむ結果になりました。ドイツのダンサーには失礼ですが、お年の割には元気でPromenadeしていく途中でお互いにくるくる回したり回されたり楽しそうに踊っているのを見かけました。

アフターパーティーは合せて70名での宴会となりましたが、言葉も良く通じない中、ボディランゲージで飲むほどに大いに盛り上がりました。最後に日本式三本締めとドイツ流の肩を組んでの歌を歌いながらのビールでの乾杯締めの交歓となり、まさに国際交流といった感じの一幕でした。また、東京SDCと赤羽SDCにも、先着していた2名の方が訪問されたとの事です。(坂口 利宗)



●11月9日(日) 金沢

兼六サンシャイン、白山SDC、金沢SDCの3クラブ合同の例会が開催され、北陸3県のダンサーにも参加頂いて総勢103名、Tonyの奥様のAnnetteのキューは素晴らしかったですね。

アフターパーティーは91名。笹寿司を美味しい美味しいと食べてもらって、身振り手振り片言の英語で国際親善真っ盛りとなりました。特に彼らの例会会場入場の際しての国歌演奏に対しては、涙が出る程に嬉しかったとのDominik(代表者)のコメントがありました。北陸中日新聞の取材も頂きSDの普及に貢献出来たのは有り難い事でした。(坂井 浩)



●11月11日(火) 京都

フレンドリー京都と守山ツィンクルスクエアーズの合同例会に、ドイツの方々を迎えました。合わせて70名を超える人数となり、会場も満杯状態でした。皆さん積極的に誘い誘われ、18時から20時半まで楽しそうに踊っていました。ニュージーランドとドイツの方のコールで踊れるか心配でしたが、皆さん、難なく踊っていました。もちろん、日本人のコールでも盛りあがっていました。

アフターパーティーも開催し、ドイツの方31名、日本から18名が参加され、ビールと軽い食事で盛り上がりました。みなさん、肩を組み合せて歌い、身振り手振りでの情報交換など、楽しい時間を過ごしました。(中川 裕)



●11月13日(金) 大阪

藤井寺Kittenスクエアーズの例会に、ドイツの方々も踊りにいらっしゃいました。背の高い方が多く、人数も会員と同じくらいで、圧倒されました。日本にいながら、海外へ来た気分。思う様に会話は出来ないけど、みなさん明るくて、一緒に楽しいひとときを過ごせました。

例会は13日の金曜日、ブラックキャットというらしく、黒猫のバッジを付けたたり、黒猫Tシャツを着ている人がいました。こちらの<Kitten>は子猫で、バッジには黒猫マーク。運命的な感じでした。(金子 浩美)

その後、ドイツの一行は、11月14日に大阪を立ち、台北へと向かい2か所のクラブ訪問後、帰国されました。今後ともこのような海外のスクエアダンサーとの交流を深め、ダンス友達の輪を広げていきたいと思ひます。